

2020年東京大会に向けた最近の取組について

2020年東京大会を、日本全体が力を合わせて、世界中に感動を与える最高の大会とするため、関係府省庁、東京都、組織委員会等と連携して以下のような取組を推進。

(1) セキュリティ

- 政府におけるセキュリティ対策の中心となる「セキュリティ調整センター」の設置（3月目途）

(2) 円滑な輸送

- 働きかけによる交通量削減の更なる上積み
- 交通規制の具体的な検討と首都高での料金施策の着実な実施

(3) 暑さ対策

- 昨夏の試行の検証と大会本番に向けた対策の強化
- 熱中症等関連情報の発信強化

(4) 感染症対策

- 「推進計画」に基づく水際対策等感染症対策の推進
- 大会関係者への風しん・麻しん予防接種の実施（本年度補正予算）

(5) 復興オリンピック・パラリンピック

- 福島のリヴィレッジから聖火リレーがスタート（3月26日）
- 復興ありがとうホストタウンの取組推進 30自治体

(6) ホストタウン

- ホストタウンの更なる推進 479自治体、163か国・地域
- パラリンピック選手を受け入れるホストタウンの拡充等（本年度補正予算）

(7) 共生社会

- 共生社会ホストタウンの拡充 69自治体
- バリアフリー法改正による「心のバリアフリー」の取組強化

(8) 文化

- オープニングセレモニー（3月）をはじめ「日本博」を全国展開
- 地域の文化資源を活かした文化観光の推進

(9) 食文化

- 選手村ダイニングでの国産食材の産地表示と全国の地域特産物を活用した食事の提供